

第 20 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日 時：平成 25 年 2 月 9 日(土) 13:00～17:15

場 所：突堤現地見学会；突堤建設箇所

室 内 会 議；佐土原総合支所

参加者：

□市民：突堤現地見学会 29 名、室内会議 25 名

□専門家：

(宮崎海岸侵食対策検討委員会) 柴田委員

□行政関係機関：

(国)宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所

(県)河川課、港湾課、自然環境課、漁村振興課、都市計画課、

宮崎土木事務所、中部港湾事務所、中部農林振興局

(市)土木課、佐土原総合支所建設課・農林水産課

実施内容：

13:00～14:55 突堤現地見学会（於：宮崎海岸現地）

事務局より開会の挨拶、突堤現地見学会の趣旨説明を行った後、現地へ移動し、突堤建設箇所において現地見学会を行った。

現地では、事務局及び柴田委員（福岡大学准教授）より見学のポイント等について説明を行い、参加者は各自現地を見学した。その後、現地見学を踏まえて質疑応答を行った。

質疑応答の内容については①突堤現地見学会時の主な質疑応答のとおり。

14:55～17:15 室内会議（於：佐土原総合支所）

事務局より開会の挨拶、専門家、県、市の出席者の紹介を行った後、吉武宮崎海岸市民連携コーディネータ（以下「コーディネータ」）の進行により議事が進められた。

まず、事務局より、景観検討に係るこれまでの経緯について説明を行い、引き続き柴田委員より、資料及び模型を用いて景観検討に係る談義のポイントについて説明を行った後、模型を囲みながら市民との談義を行った。

続いて、事務局より養浜工事等の予定について説明の後、質疑応答を行った。

最後に、事務局から来年度の予定について説明の後、コーディネータからの報告を行った。

談義の内容については②室内会議の内容のとおり。

※現地見学会の開催前 30 分程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

①突堤現地見学会時の主な質疑応答

現地において柴田委員より現地見学のポイントを説明し、そのポイントを踏まえて参加者は現地を見学した。その後、参加者が集合し質疑応答を行った。現地見学のポイント及び質疑応答の概要は以下のとおり。

～現地見学のポイント（柴田委員より）～

○近くから見学する際に見て欲しいポイント

- ・北面には大きいブロック、南面には小さいブロックを置いている。ブロック自体の大きさや穴の大きさなど、南北の違いも含めて、近くで見て体感して欲しい（ブロックの大きさについては、室内会場の模型よりも現地で体感する方が確実）。
- ・ブロックの表面は、洗い出し仕上げにしている。海の構造物はすぐに黒くはなるが、洗い出し仕上げによりまんべんなく黒くなることを目指している。また、洗い出し仕上げの有無について差がわかるよう、沖側には洗い出し仕上げをしていないブロックも置いている。
- ・既設護岸ブロックと突堤に使用しているブロックについて、穴の大きさも含めたバランスを見て欲しい。

○遠くから見学する際に見て欲しいポイント

- ・この突堤が遠くからどのように見えるかということも大事なポイントである。少し離れた場所から見た時に、ブロックの大きさがどのように見えるか、周りの風景の中にどのように置かれているかということも感じながら見て欲しい。

～現地での質疑応答～

現時点での突堤の効果について

[参加者]

- ・突堤建設工事については今年度着手したばかりであり、今後もまだまだ工事は続くと思うが、今回の突堤 30m の建設によって砂浜への効果は現れているのか教えて欲しい。

[事務局]

- ・昨年 10 月から工事が始まり、現在突堤が 30m 建設されたところであるが、この段階で突堤の効果について言及するのは難しい。突堤により波当たりが弱まって、砂が付いているように見えるかもしれないが、我々が人為的に土砂を入れていることもあるため、現時点で効果が出ているとは言いがたい。
- ・突堤が 100m くらいまで延伸されると効果が出てくると考えているが、その効果については効果検証分科会で専門家と検討しているところである。来年度には談義所等でもお知らせしたい。

生態系について

[参加者]

- ・我々の子供時代は、海の近くに行くと磯の香りがしていた。今は、宮崎海岸だけではないが、それがなくなってしまった。また、海は濁り、生態系もおかしくなってしまったのではないかと非常に危惧している。
- ・原因は色々あると思うが、工事をする際にはそのことも考えて欲しい。

[事務局]

- ・今の話は、何十年か前の状況だろうと推察する。その頃のデータがないためわからないところはあるが、今の状況は調査でしっかりデータを取っているため、水質が悪化するといったことがないよう配慮しながら進めたい。磯の香りが戻ってくるような砂浜を目指して努力したい。

②室内会議の内容

～景観検討の談義～

事務局より、景観検討に係るこれまでの経緯について説明を行った。引き続き柴田委員より、資料及び模型を用いて景観検討に係る談義のポイントを説明した。その後、模型を囲みながら市民との談義を行った。

質疑応答の概要は以下のとおり。

模型についての補足説明

[事務局]

- ・北面と南面で形が異なるブロックを置いているのは対比のためであり、異なるブロックを使用して今後工事を進めていくということではない。
- ・縮尺 1/200 の模型は、突堤の全延長（300m）ではなく約 220m までの範囲を製作しているため、最終形はあと 80m 延伸した形となる。また、突堤は全部で 3 基整備予定であることも合わせて補足する。
- ・汀線の形が円弧状でないためおかしいという指摘があったが、模型の汀線はおおよその位置を表現したものであり、ここでは、突堤の北側に 100m なり 150m 先まで砂が付くというところを見て欲しい。

[専門家]

- ・突堤端部のブロックが沈下してずれたりしないかという質問もあったが、ブロックの下に沈下しないようにマットを敷いているとのこと。
- ・できれば、最終的にどのブロックが良いかという方向性を決めたい。専門家としての原案は、現場で見た 10t 型ブロックは噛み合わせが良く、現地盤にもうまくなじんでいたように思う。なお、6t 型だと小さくて個数が増えるため、施工手間が増え、かつ穴が多くなってしまう所が難点だと思っている。この原案に対して意見や質問が欲しい。

突堤の設置間隔について

[参加者]

- ・突堤は 300m、150m、50m の 3 本設置するが、設置の間隔は状況によって変わるのか。

[事務局]

- ・今は約 1km 間隔で計画している。

突堤への生物付着の想定について

[参加者]

- ・突堤を設置する目的は砂を止めることにあるが、そこに海藻や貝などが付着することも想定しているのか。

[専門家]

- ・どれだけの効果があるかというところまでは想定していないが、洗い出し仕上げによりブロックの表面がざらざらとしているため、色々なものが付着しやすい状況ではある。

[事務局]

- ・貝を付着させる仕組みのブロックというところまでは考えていないが、沖側のブロックには既に海藻や貝が自然に付着している。

突堤の安定性の検討方法について

[参加者]

- ・今回、コンクリートで突堤を整備したことに対しては、波の力が強いことを考えるとやむを得ない、むしろベターな選択だと思っている。
- ・波の這い上がりや、風の影響、沖から来る波の影響に関しては、コンピュータのシミュレーションだけではなく、模型実験も行っていきたい。

[事務局]

- ・技術的な部分は我々が責任を持ってしっかり検討を行っていく。また必要があればいつでも検討の見直し等を行うことも肝に銘じている。

[専門家]

- ・私も効果検証分科会の委員の一人であり、その思いはしっかり覚えておく。

ブロックの明度を抑える方法について

[参加者]

- ・コンクリートブロックのエイジング（風化作用）について、どの程度の期間で明度が下がるのか今日の資料では明確になっていない。なお、河川の景観にはガイドラインがあり、それによるとコンクリートブロックは「明度 6 以下」を目指しなさいとなっている。また、テクスチャ（表面の質感・手触り）については、通常のコンクリート仕上げだと表面がつるつるして生物が上っていけないため、ざらざら感を出すようになっている。海岸にはそのようなガイドラインがないということで大変だと思うが、今日見た感じでは、突

堤の南面に日が当たって反射するため、現場で自然を感じている人にとってはそれが目障りだという話になりかねないと思った。ブロックの表面に凹凸があった方がコントラストがついて明度が下がると考えるが、そのようにできないものか。

[専門家]

- ・どの程度の期間で明度が下がるのかということについては、波の打ち返しの頻度等によって変わるため明確には言えないが、経験上、1~2年程度でブロックの表面は黒くなり、明度が下がる。例えば大きい橋梁などで凹凸をつけることで影をわざとつくり細く見せるデザインの手法等も確かにあるが、海洋構造物の場合は、凹凸をつけることで逆に圧迫感や違和感を大きくしてしまうのではないかと考え、さらに既設護岸との調和も考慮し、今回はフラットな形状とした。

現地見学の際の突堤の見せ方、ブロックの材料、突堤天端の施工について

[参加者]

- ・現地見学時に、突堤計画の先端（300m）位置にブイを置くなどの配慮があれば、突堤の長さのイメージがわかりやすいと思った。
- ・ブロック表面の洗い出しにより、藻が着生しやすくなるということだが、コンクリートの材料として砂の代わりに鉄鋼スラグを少し使うことで、より一層藻が着生しやすくなるため、漁業者の理解を得やすくなるのではないかと考えた。鉄鋼スラグであれば大分からの運搬費だけでコストが抑えられるのではないか。
- ・突堤の沈下をある程度考慮した上で、最後に天端ブロックを置くのか。

[事務局]

- ・突堤の長さのイメージを確認するブイの提案については、今後現地見学会等があれば検討したい。ちなみに、現場で見えていた船は、岸から沖に向かって約400mの位置を航行していた。よって、突堤の先端（300m）は船の位置よりも岸に近い。感覚的には、近めに見えた（船の位置が300mより近く見えた）方々が多かったのではないかと思う。
- ・鉄鋼スラグについては、その良し悪しも含め検討する必要があるため、提案として頭に入れておく。
- ・工事期間中は突堤の天端に重機が通るため、今は石がむき出しになっているが、最終的には突堤の先端から基部に向けブロックを設置して完了となる。

岸沖方向でのブロック規模の切り替えについて

[コーディネータ]

- ・陸側に設置するブロックを小さいものにした場合、どの程度沖側から大きいものに切り替える必要があるのか確認させて欲しい。

[事務局]

- ・離岸堤くらいの距離が目安であり、そこから先は大きいブロックに切り替えないと波力に対して安定しない。

突堤設置後の大炊田への効果について

[参加者]

- ・突堤を設置することで、北側にどれだけの砂浜ができるのか、大体で良いので教えて欲しい。

[事務局]

- ・突堤の効果が大炊田まで現れるようシミュレーションを行いながら、検討を行っている。大炊田では突堤直近ほどの効果はないため、合わせて養浜や埋設護岸による対策が必要な計画となっている。

[参加者]

- ・突堤直近の砂浜が広がるのは当然であり、突堤の北側の砂浜がいかに回復するのかということが問題である。
- ・（漁業者の立場としては）突堤をあまり延伸してもらいと困る。できるだけ長さを抑えて欲しい。

大炊田地区への突堤設置要望について

[参加者]

- ・突堤の設置により大炊田海岸まで砂が付くと言われたが、北から南に砂が流れ、間に石崎川が流れている現状でそのように言われても疑問である。結論としては、大炊田にも 150m の突堤を作って欲しい。

[コーディネータ]

- ・突堤だけで対策するという話ではなく、養浜や埋設護岸との組み合わせでこの海岸を守ることが方針として決まっているため、事務局に補足説明をお願いしたい。

[事務局]

- ・大炊田に突堤を作って欲しいという話を否定するものではないが、今は、皆で決めたこの計画に沿って対策を進めていきたい。なお、大炊田については優先的に護岸工事も実施していく。今後、対策の効果を確認しながら大炊田の砂浜が回復しないということになれば、その時にまた検討する。

[参加者]

- ・大炊田の砂浜がだんだん無くなってきているため、今回設置する突堤と合わせて、大炊田にも突堤を作って欲しいというのが大炊田地区民の考え方である。

[事務局]

- ・そこを否定するつもりはなく、重々承知している。忘れないように進めていきたい。

[コーディネータ]

- ・大炊田の危機感については事務局も重々認識していると思う。
- ・時間的な感覚で早くやって欲しいという思いであろうが、まずは3つの組み合わせ（養浜、突堤、埋設護岸）で対策し、効果検証分科会でその効果を毎年確実にチェックしていった上で、効果が思ったより出ないということになれば、プランを少し修正していく必要があると思う。それがステップアップサイクルである。

[参加者]

- ・早めの対策をお願いしたい。

想定外の事象に対する注意について

[参加者]

- ・将来、津波等の自然災害だけに限らず、色々な予期せぬことが起こることも考えられるため、その辺りのところもチェックしながら進めて欲しい。

[事務局]

- ・まさにそこがステップアップであると思う。そのように対応していきたい。

突堤基部のブロック選定の考え方について

[参加者]

- ・6t型、10t型、20t型、30t型ブロックの強度がすべて同じなら、手前にも大きなブロック（20t型、30t型）を使用した方が設置手間が省けるため、工事が早く終わると思う。

[専門家]

- ・手前に30t型のような大きなブロックを使用すると、海岸に立った時に圧迫感があるということ、また大きなブロックは微妙な地形の起伏にうまくはまっていかないが、小さなブロックであれば地形に馴染むように綺麗に積み上げていけることから、10t型ブロックが良いと考えている。

[参加者]

- ・その場の状況に応じて、大きなブロックと小さなブロックを使い分けていくことはできないのか。

[専門家]

- ・大きなブロックと小さなブロックでは高さが違うため、大きなブロックと小さなブロックを部分的に使用すると、でこぼこになり格好が悪くなる。

[参加者]

- ・凹凸を出すことによって陰影ができ明度が調整されると思っているが、凹凸があるといけないのか。
- ・なお、参加者から、コンクリートブロックの強度について質問があったが、質問者が聞いたかったのはコンクリートブロックの波に対する強さであり、専門的にいう強度（コンクリートがどのくらいで壊れるか）とは意味合いが異なる。そのように、同じ言葉でも専門家と一般の人で捉え方が違うため、

回答がずれ違わないように確認しながら進める必要がある。

[専門家]

- ・凹凸が景観的に悪いということはないが、既存護岸が平らなものであり、それと合わせた方が突堤の接続が綺麗で良い。
- ・また、表面は洗い出し加工ができるが、側面は洗い出し加工ができないため、仕上げに違いが生じ、汚れの付き方が変わってくる。ブロックの大きさが異なり段差がつくと、2つの違う種類の面（表面、側面）が出るため、汚れの濃淡が逆に目立ってしまうだろうと判断している。

[参加者]

- ・視点場という話があったが、視点場は海側ではなく陸側にあり、陸側からは既設護岸のブロックは見えないため、新しく設置する突堤ブロックの仕上がりを既設護岸のブロックと同じにする必要はないと思う。

[専門家]

- ・今後、仮に突堤を利用させようという話になった場合、突堤へは既設護岸の上を歩いて行くわけだが、その際に突堤のブロックが大きすぎて違和感を与えるよりも、既設護岸とのつながりを考えておいた方が良いと思う。

[参加者]

- ・ただ、陸側からの視点の数の方が断然多いと思うが。

[事務局]

- ・確かに今は陸側からの視点（既設護岸天端からの視点）が多いが、砂浜が戻ってくるとそうではなくなる（砂浜に降り立って見る視点）ため、既設護岸との接続の視点も重要になると考える。
- ・先程、専門家からコンクリートブロックの洗い出しは表面しかできないという話があったが、その理由を補足すると、ブロックは鉄の型枠に入れて製作するため、型枠に接する側面は洗い出しができないということである。
- ・ブロックは重い方が波に対する安定性は良いが、突堤の根元は砂浜に近いため6t型でも波の力に十分耐えられる。そのため、経済性や景観といった安定性以外の視点でブロックを決めることになる。経済性についてはブロック自体のコスト（小さいブロックは安く、大きいブロックは高い）と工事のコスト（小さいブロックは設置する回数が多いため高く、大きいブロックはその回数が少ないため安い）の両方を加味すると、実はあまり変わらない。したがって、今回は景観面で決めることとした。

突堤完成後の利用とその安全対策について

[参加者]

- ・突堤完成後の利用について今の考えを訊きたい。宮崎には釣りの愛好家が多く、宮崎港でもフェンスを乗り越えて防波堤の先へ行き命を落とす方もたくさんいる。今回突堤を設置するエリアも釣り人が多く、さらに釣りに利用しやすい形状であることから、突堤で釣りの利用をする方が出てくると想定される。また、景観上とても親しみやすく、人が歩きやすいような造りになっ

ているため、一般の利用も想定される。

- ・そのため、突堤が完成した後は、根元の部分にフェンスを設置して人が入れないようにするなどの安全対策を考えているかどうか教えて欲しい。

[事務局]

- ・突堤を利用するかどうかは今後の議論であり、今のところわからない。
- ・全国的には、きちんと管理した上で、防波堤を開放している事例もある。現在は国土交通省が施工を行っているが、完成後の施設管理については宮崎県が行うこと、また、利用の関係については宮崎市との調整も必要になることから、利用の可否も合わせて今後議論をしていきたい。
- ・ただし、自己責任だからと看板だけで立入禁止とするのもどうかと考えており、これらは完成するまでに考えないといけない問題である。
- ・なお、現在は工期中であり立入禁止としている。また、今回の工事がいったん終了した工事休止期間中の立ち入りも禁止する予定である。看板の内容については、立入禁止と書いても何が危険かわからないところも多々あるため、何が危険なのかわかるようにしたい。また、リゾート地区も近いため、外国人が訪れることも想定して英語表記も検討したい。

突堤基部のブロック選定について

[参加者]

- ・突堤基部のブロックが 10t 型で良いかという話をまとめてはどうか。

[専門家]

- ・私の提案した原案（基部は現場に設置されている 10t 型のように、ブロックの噛み合わせが良く、圧迫感が小さく、現地盤への追随性に優れたブロックを基本的な方向性とする）が良ければ拍手をいただきたい。

[参加者]

- ・（参加者から拍手あり）

[コーディネータ]

- ・本日の談義で突堤基部に用いる被覆ブロックの方向性は決まったが、今後委員会等にも諮り、決定していくこととなる。

～養浜工事等の予定～

事務局より「養浜工事等の予定」について説明を行い、その上で質疑応答を行った。質疑応答の概要は以下のとおり。

コーディネータより確認

[コーディネータ]

- ・埋設護岸については、コンクリートの壁ができないように砂で覆った護岸という理念であった。さらに、できるだけコンクリート以外の材料ということ

でサンドパックを検討しているが、仮にサンドパックが使用できない場合にはどうなるのか。

[事務局]

- ・埋設護岸の理念に変わりはない。サンドパックの採用に向けてある程度自信も持っているが、仮にサンドパックが使用できない場合には、既存の技術の中で選択をすることとなる。なお、夏までにその結論を出すというスピード感で進めていく。

[コーディネータ]

- ・それは効果検証分科会ではなく、技術分科会とやり取りをしながら検討を進めていくということが良いか。

[事務局]

- ・そのような進め方となる。

養浜の管轄と環境調査について

[参加者]

- ・養浜の管轄がいくつもあるようだが、それは何故か教えて欲しい。
- ・今の海岸に打ち上げられている貝殻は、我々が子供の時にはなかったカキ殻がほとんどであり、バカガイやハマグリ等がまったくいない。生物については是非とも基礎調査を行って欲しい。

[事務局]

- ・管轄を分けて養浜を行っているわけではなく、各事業者が、それぞれの工事で発生した土砂を宮崎海岸に持ってきてくれているという意味である。
- ・生物の基礎調査については、平成20年度以降はしっかりと調査を行っており、これからも継続して行って、専門家や市民の皆さんと話をしながら効果・影響を確認していきたいと考えている。

[コーディネータ]

- ・効果検証分科会には生態系や生き物の先生も入っているため、これからその効果・影響を確認しながら、事業を進めていくということである。

[参加者]

- ・生物の基礎調査のデータの発表はあるのか。

[事務局]

- ・すべてホームページ等で公開している。

[コーディネータ]

- ・生物の基礎調査の結果は委員会資料でも確認できる。委員会資料は宮崎河川国道事務所で閲覧できるので確認して欲しい。

養浜砂の調達について

[参加者]

- ・大炊田海岸や住吉海岸から流れた砂が港に溜まっているのであれば、それを元々あった海岸に戻せば、楽に養浜ができるのではないか。

- ・また、一ツ瀬川河口の導流堤北側に砂が溜まっているため、その砂を利用して危機感が高まっている大炊田海岸に養浜を行えば早いのではないかと。

[事務局]

- ・宮崎港に溜まった土砂は既に海中養浜として利用している。
- ・また、将来的には、関係者と調整しながら、一ツ瀬川河口の導流堤北側を含め色々なところから土砂を持ってこることも考えているが、現在は、輸送コストが安価であるなどの面から宮崎港の仮置土砂等を使用している。

[コーディネータ]

- ・採取場所に影響が出ないように、検討しながら進めていく必要があるということだと思う。

突堤工事の今後の予定、大炊田のサンドパックによる埋設護岸について

[参加者]

- ・現在の突堤工事は2月で終了ということだが、次の突堤延伸が始まる時期、工事期間、工事延長について予定を教えてください。
- ・突堤が延伸されることで、突堤付近は間違いなく砂が付いてくると思うが、大炊田海岸周辺は砂浜が減少する可能性がある。川からの流出がない限り砂の回復を養浜に委ねないといけないため、大炊田の方はさらに力を合わせ、声を上げた方が良くと思う。
- ・また、大炊田海岸で予定されている埋設護岸については、消波ブロックを入れてしまうと今までの話し合いがすべてリセットされてしまうため、是非サンドパックを採用できるよう努力してほしい。

[事務局]

- ・突堤のブロック製作は夏頃から行う予定だが、工事自体は台風シーズン後を考えている。また、突堤の整備延長については、予算次第であるため現時点でわからないが、概ね離岸堤の位置まで伸ばしたいと考えている。漁協の方々や皆さんとの話し合いも必要であるが、可能であれば離岸堤のやや沖くらいまで伸ばしたいと考えている。
- ・大炊田海岸の埋設護岸については、我々もサンドパックで進めていきたいと考えている。期待に応えられるように頑張りたい。

対策の効果について

[参加者]

- ・潮に強い植物を核として砂浜を形成するべきであると技術者の先輩方も言っているが、養浜した砂浜にはどこにも植物は生えていない。植物が生えている場所があったら教えて欲しい。
- ・宮崎港やビーチの土砂を養浜すれば簡単に砂浜は付くため、突堤は必要ない。教科書にない工法を何故採用するのか。

[コーディネータ]

- ・この対策は、これまで勉強会、談義所、委員会、技術分科会等を踏まえ、宮崎海岸トライアングルに基づいて専門家や市民の皆さんの意見を聞きながら長い間検討して決まったものであることは御存知のはず。
- ・まだ反対賛成はあると思っているが、長い間、議論に参加してきた皆さんに対し敬意を表する気持ちは持っておいて欲しい。

[事務局]

- ・養浜後に植物が生えているところはある。ただ、突堤は設置してまだ間もないため、周辺箇所は植物が生えるほどの状況ではない。
- ・また、教科書に載っていない工法を採用しているという話があったが、我々は技術的な基準に従って検討をしている。

[参加者]

- ・構造物を整備するのではなく、自然の砂浜を復元することが第一だということを踏まえて欲しい。効果の上がらない方法を見直して、一日でも早く砂浜が復元する方法を再度検討して欲しい。

[コーディネータ]

- ・意見として承っておきたい。

～その他～

来年度の予定

事務局より、「来年度の予定」について説明を行い、その上で質疑応答を行った。質疑応答の概要は以下のとおり。

[参加者]

- ・計画段階において、談義所で市民の皆さんともに対策を検討してきたことは非常に素晴らしいと思う。
- ・施工段階でも市民と連携していくために、市民目線のモニタリングがあっても良いと思う。モニタリングは専門的に行うとしても、その検証材料として市民側のモニタリングは必要であると思うし、それについて談義所で色々話をしていた方が良い。

[コーディネータ]

- ・市民が関われるモニタリングや評価については、第18回、第19回談義所等でも話をしたところで、考えているところではある。
- ・技術分科会や効果検証分科会は、やはり技術的なところがあるため、市民の方々が「変わったよね」と体感できるような方法を模索する必要がある。それをどのように実現するかも含めて引き続き検討したいと考えている。

コーディネータからの報告

最後に、コーディネータから次年度以降の体制について説明を行った。

[コーディネータ]

- ・これまで、談義所はもとより、委員会や分科会などすべての会議に出席し、事業主体と市民と専門家をつなぐということを1人でやってきた。しかし、4月の異動に伴い、それを今までの密度でやることが難しい状況となった。
- ・そのため、今後は「宮崎海岸市民連携コーディネータチーム」ということで、複数で対応していきたいと考えている。メンバーは、市民連携の経験が豊富で、私が信頼を置く東京工業大学の高田氏、九州大学の高尾氏、そこに私を加えた3名で対応したい。

※コーディネータチームから自己紹介、参加者から拍手

以 上